

解放する)”という言葉がある。中国の長期的な政治的生活の中で、政治的に被打倒された幹部に対して、新たに仕事を回復させ、あるいは新たに高い政治的地位を与えることは、“平反”“解放”と呼ばれている。名誉回復は政治的地位が新たに上昇することを意味している。それは経済的地位の上昇を伴う上昇であることもあれば、経済的地位は特に変化せず、政治的地位だけが急速に上昇することもありうる。

われわれはもう一度第二段階の状況を見てみよう。中国の文化大革命が終わった後、特に市場経済へ移行した後には、政治運動と政治闘争が緩和されたと同時に、**経済的地位の作用、財産階層の意義が大きく上昇した**。したがって、第二段階では、**経済的地位は政治的地位より重要視される**。

この段階での**政治的階層と経済的階層の変化の特徴**としては、**経済的階層の格差が急速に拡大していると同時に、政治的階層の格差が急速に縮小している**。政治的階層の格差の縮小は1979年前後の重大な政策変遷を通してなし遂げられたのである。1979年1月、中国共産党中央が重大な決定を下して、地主富農にレッテルを取り除くことを公表した。十年間あまりの社会変革を経て、中国社会において人間を異なる政治的等級に区分する現象がほとんど消えた。出身階級、出身家庭、社会関係などによって招いた政治的差別はほとんどなくなった。都市住民と農村住民の二元分割の身分制度、都市の労働者と幹部の二元分割制度、幹部職別階層に基づいて形成された全体社会における垂直階層の官本位制度等々、このような社会階層と社会不平等の体制も衰弱しつつある。

したがって、改革以来の**社会階層構造の変化**はある人たちが言ったような、単に格差を急速に拡大したプロセスではなく、**経済的格差の拡大と政治的格差の縮小が共に進んだ結果である**。言い換えれば、**経済的不平等が政治的不平等にとって代わった**ということである。あるいは政治的階層の格差の収斂によって、**経済的階層の格差の拡大に対して一種の補償とバランスを与えた**とも言えるだろう。1976年以前のような、平均主義の経済的階層政策が当時の巨大な政治的階層格差に対して補償とバランスの役割を果たしたのと同じことである。政治的階層と経済的階層は、それぞれ異なる

不平等の性質を持ち、比較するのが困難である。したがって、国際社会学界は、市場移行後の社会階層の格差が拡大されたのか、または縮小されたのかについて議論に関して容易に結論が出せないだろう。中国の実情にもとづいて、**筆者は第三の観点を提示したい。すなわち経済的な面から見ると、格差が拡大されたが、政治的な面から見ると、格差が逆に縮小された。**

以上の内容から、スゼレンニ、ピクター・ニーが主張している市場移行の平等化効果が、中国の場合、経済収入の面で反映されないということを証明できる。なぜかという、収入の面から見ると、格差の拡大が明らかであるが、政治的階層の面では市場移行中の政治的差別がなくなりつつあり、政治的不平等は大きく弱まりつつあるからである。この面での平等化効果が明らかである。市場自身は各行為主体間での規則による平等的交易であるため、一つの社会交通の方式からいうと、確かに平等化の特徴を持っている。

本稿は政治的階層と経済的階層に関する研究であるが、実は経済学の逆U字型曲線理論に対する挑戦でもある。逆U字型曲線理論は市場が経済発展を促進する時の不平等変遷を分析する場合、**経済的不平等だけに注目するが、政治的不平等の存在を完全に無視した**。社会は全体社会であり、不平等現象も総合的現象である。逆U字型理論は経済的不平等について描いていたが、それは社会の真実な不平等の現状ではなく、経済学において分裂された研究方法によって不平等現象が歪曲された。中国の実例によって、市場移行中の社会階層と不平等における研究は、まず社会不平等の二つの基本形式、すなわち政治的不平等と経済的不平等を考慮すべきである。

以上の分析を通して、筆者は社会階層は社会構造に隠れている一つの内部関係であり、社会資源が集団間での分配を反映していると思う。資源が限られているとき、社会各集団間の関係は比較的緊張を伴うようになり、このとき、不平等の度合を高めることを引き起こす。したがって、社会集団間の格差が比較的大きくなる。この格差は経済面での大きな格差として現れたり、政治面での大きな格差として現れたりする。ウェーバーの三元分層は、社会階層の格差の三つの方式を提示した